

学生による平泉の認知度とイメージに関する研究

岩手大学 学生員 ○鈴木 明日菜
岩手大学 学生員 伊藤 遼太郎

岩手大学 正会員 南 正昭
岩手大学 学生員 古巣 大樹

1. はじめに

岩手県平泉の文化遺産は平成 13 年に世界遺産暫定リストに登録され、平成 20 年 7 月にカナダで開催された第 32 回世界遺産委員会で決議が行われたが、その結果は登録延期というものであった。その結果を受けて岩手県や平泉町では、平成 23 年の世界遺産登録を目指して、再チャレンジが進められている。

世界遺産登録には平泉関係者だけではなく、岩手県住民全体の理解と協力が必要であるが、県住民の中にも平泉に関心がない、平泉のことをよく知らないという人も多くいるのが現状である。特に大学生を始めとした若年層の平泉への認知度は低いように思われる。

そこで本研究では岩手大学学生を対象として SD 法に基づく岩手県内市町村のイメージ調査を実施し、主に平泉に焦点を当て分析を行い、平泉に対して学生がどのようなイメージを抱いているか、また、訪問経験の有無に着目し、それによってイメージに差があるのかを明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

本研究では、平泉を含む岩手県内の市町村についてのイメージ調査を実施した。平成 19 年観光客入込人数を基に 19 の対象市町村を選び出し、それに対して形容詞句対などの評定尺度を用いた SD 法による調査を行った。

被験者は岩手大学学生と、岩手県庁都市計画関連部局の職員である。県庁職員にはまちづくりの専門家として学生の結果と比較する目的でご協力をお願いした。

今回行った SD 法調査では 16 の形容詞句対を用意し、19 の市町村それぞれについて、「とても」「少し」「どちらともいえない」の 5 段階で評価してもらった。得られた回答結果を訪問経験の有無によって分類し、因子分析を行い、市町村のイメージを構成している因子の抽出を試みた。

表-1 学生の市町村別訪問経験の有無 単位：人

	ある	ない		ある	ない
盛岡市	141	0	陸前高田市	56	85
八幡平市	81	60	釜石市	63	78
雫石町	92	49	大船渡市	59	82
奥州市	73	68	田野畑村	29	112
花巻市	111	30	洋野町	15	126
遠野市	82	59	久慈市	57	84
平泉町	83	58	紫波町	79	62
一関市	82	59	二戸市	49	92
北上市	92	49	岩泉町	49	92
宮古市	80	61			

3. 調査・分析結果

(1) 回答者属性

有効回答者数は岩手大学学生が 141 名、県庁職員が 22 名で、全員が岩手県内に在住しており、そのうち岩手県出身者は学生が 58 名、県庁職員が 19 名であった。表-1 は、学生の市町村別の訪問経験の有無である。盛岡市については学生全員に訪問経験があったため、除外して分析を行うこととした。一方、県庁職員についてはほぼ全員すべての市町村への訪問経験があった。

(2) 分析結果

訪問経験がある学生(A)、訪問経験がない学生(B)、県庁職員(C)の 3 グループに分けて因子分析を行った。その結果、A・C では 3 個、B では 2 個の因子が抽出された。図-1(a)~(c)が因子負荷量をプロットしたものである。第 1 因子は「にぎやか」「派手な」「都会的な」「活気がある」「忙しい」といった活発度合いに関する負荷が大きいため、[にぎわい因子]とした。第 2 因子は「情緒豊かな」「きれい」「落ち着く」に正の負荷、「近代的な」「危険な」「騒がしい」に負の負荷が大きいため、古風で落ち着いた雰囲気を表す[おちつき因子]とした。A と C にのみ抽出された第 3 因子は、「広い」が極端に大きな負荷量をもつため、[ひろがり因子]とした。グループ B で広がり因子が抽出されなかったのは、実際に行ったこと

がないため空間的なイメージが抱けなかったからだと考えられる。今回は第1因子と第2因子に着目してさらに詳しく分析を行った。

第1因子と第2因子を軸とし、各市町村を分類したのが図-2(a)~(c)である。平泉町について見てみると、第2因子(おちつき因子)が全てのグループにおいて極めて大きな値を示している。このことから平泉町のアピールポイントでもある「古風で落ち着いたある情緒豊かな町」というイメージは訪問経験の有無に関わらずすべての学生に認識されているということがわかった。

一方、第1因子(にぎわい因子)については、グループ A、C

では大きい、Bではほぼ0に近づいている。訪問経験のある学生は平泉をにぎわいのある町と認識しているが、訪問経験がない学生は、「とても落ち着いているものの、すこしさびしく、特別にぎわいのある町ではない」というイメージを持っているらしいということがわかった。

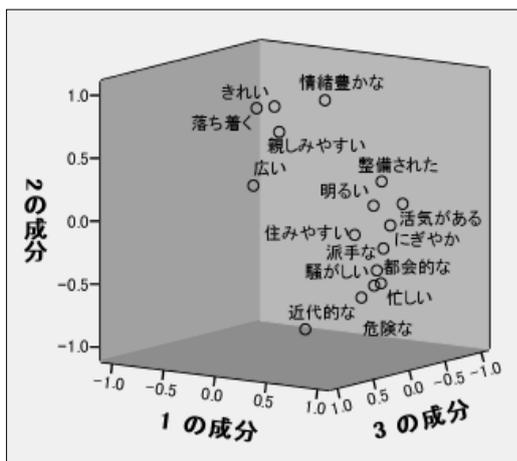


図-1(a) グループ A の因子負荷量プロット

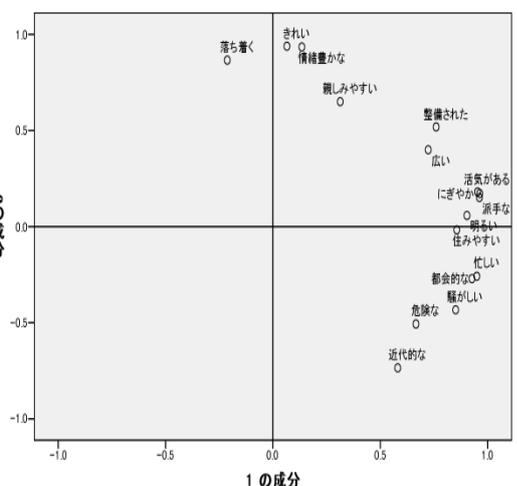


図-1(b) グループ B の因子負荷量プロット

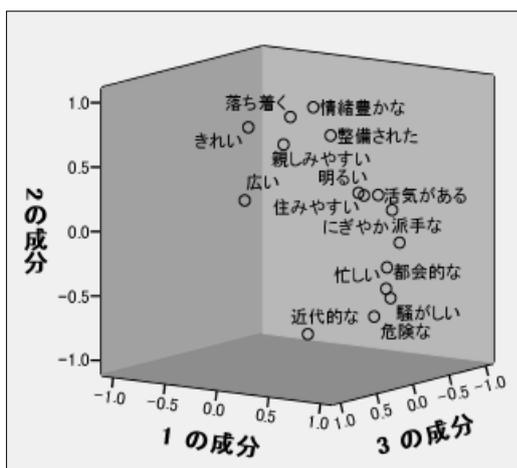


図-1(c) グループ C の因子負荷量プロット

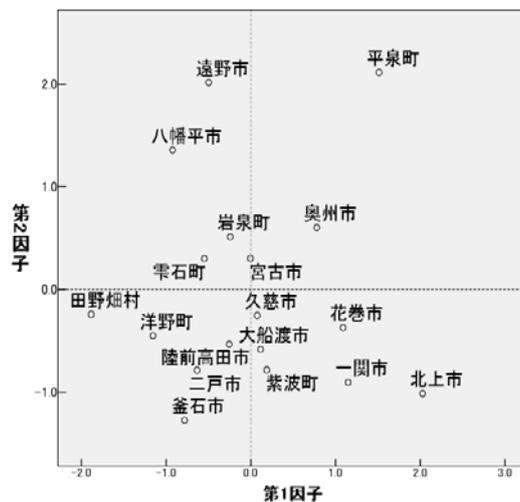


図-2(a) グループ A の都市別プロット

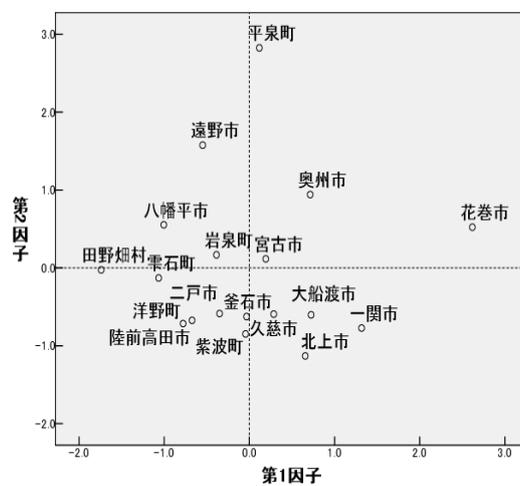


図-2(b) グループ B の都市別プロット

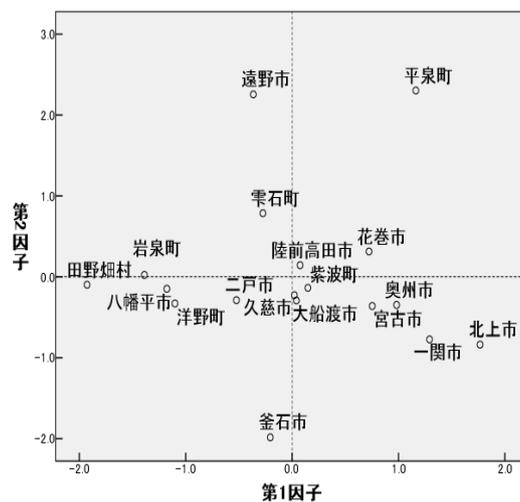


図-2(c) グループ C の都市別プロット

4. おわりに

今回は、平泉に対する大学生のイメージを、訪問経験の有無に着目して分析を行い、「にぎやかさ」「活気」といった活動性に関するイメージに差があることが明らかになった。今後は、他の項目についても分析を進める予定である。